

IV 平成21年度の調査研究について

「船橋市 新基本計画に係る市民アンケート調査 報告書」の概要

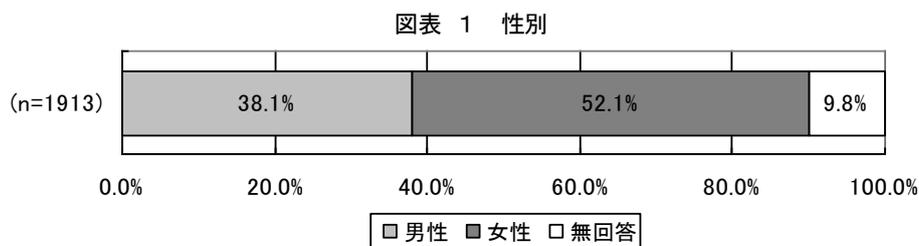
1. 調査概要

- (1) 調査目的：新しい基本計画の策定にあたり、広く船橋市民の政策ニーズや現在の政策に対する評価を把握し、基本計画の施策の方向性等を検討する上での基礎資料として活用すること
- (2) 調査対象：船橋市在住の満15歳以上の男女6,000人
- (3) 標本抽出：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布、留置、郵送回収
- (5) 調査期間：平成21年9月15日～9月30日
- (6) 有効回答数 1,913 サンプル（回収率31.9%）

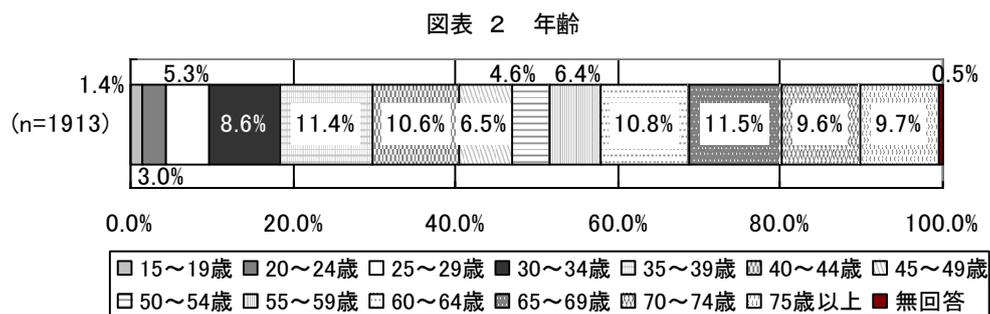
- ◆全ての集計表は、小数点第2位を四捨五入した。
- ◆回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基礎（n）として算出した。したがって、複数の回答の設問の全ての比率は合計すると100%にならないことがある。
- ◆図、表中の数字で、その項目に該当する回答がまったくないものは「0.0」と示す。
- ◆本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

2. 回答者属性

- (1) 性別：本調査の回答者は、男性が38.1%、女性が52.1%と、女性の方が高い。

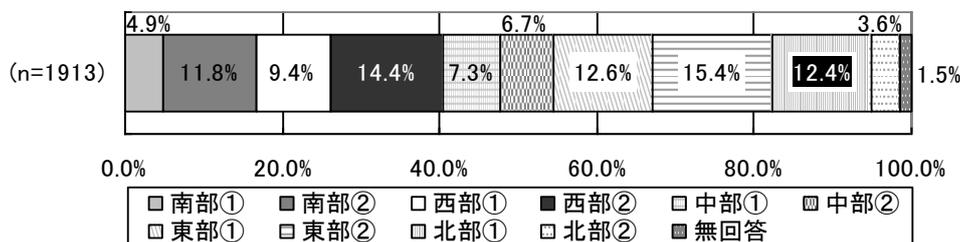


- (2) 年齢：各年齢階層の回答比率は、市全体と比べて60歳以上の高齢者層が10%前後と高く、一方、15～29歳の若年層の割合は1～5%程度と低い。



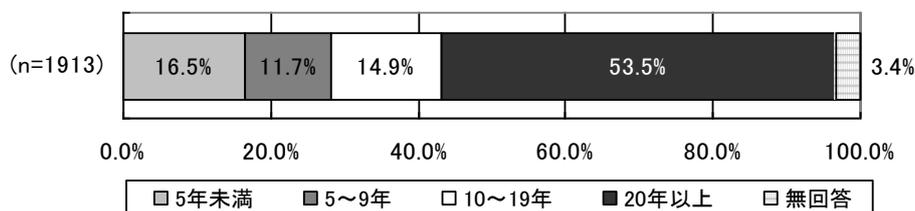
(3) 居住地区：各地区の回答比率は、市全体とほぼ同様で、割合の高い地区は東部②（15.4%）、西部②（14.4%）、低い地区は北部②（3.6%）、南部①（4.9%）などである。

図表 3 居住地区



(4) 居住年数：20年以上（53.5%）が最も高く、半数以上を占めている。

図表 4 居住年数

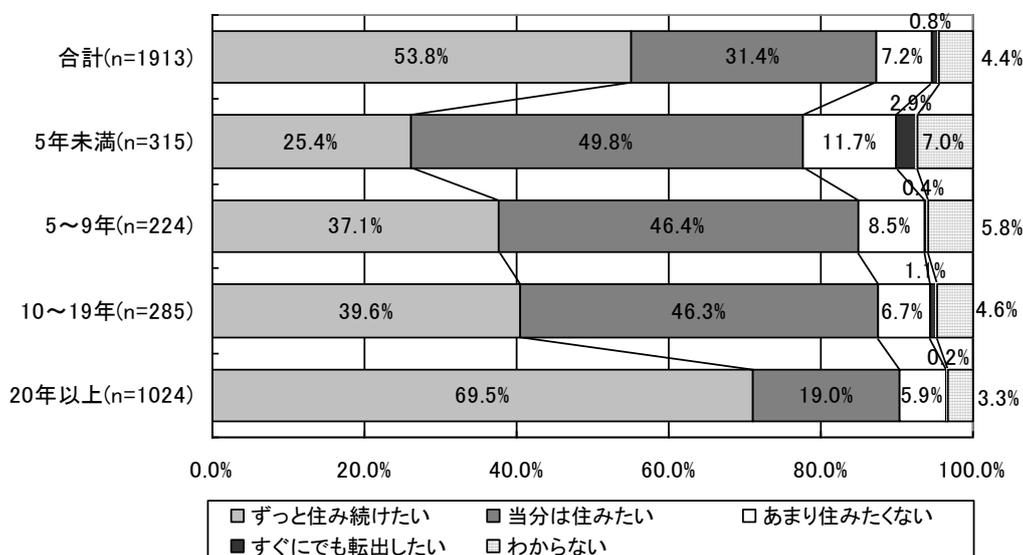


3. 船橋市での居住歴と今後の定住意向

(1) 今後の定住意向

- ・「ずっと住み続けたい」（53.8%）が最も高く、「当分は住みたい」（31.4%）と合わせると、8割以上が定住意向を有している。一方、「あまり住みたくない」（7.2%）、「すぐにも転出したい」（0.8%）を合わせた転出意向は、1割以下である。
- ・「ずっと住み続けたい」単独でも、「ずっと住み続けたい」「当分は住みたい」の合計値でも、居住年数が長いほど回答者の割合は高くなっており、居住年数と定住意向との間に正の相関関係があることがうかがえる。

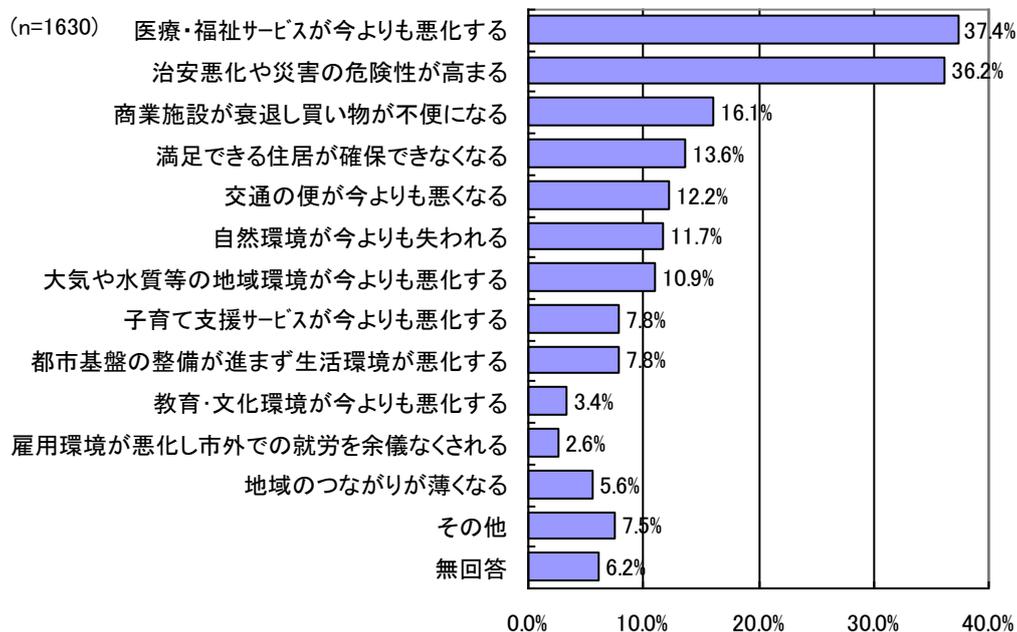
図表 5 今後の定住意向（居住年数別）



(2) 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ

- ・「医療・福祉サービスが今よりも悪化する」(37.4%)、「治安悪化や災害の危険性が高まる」(36.2%)がそれぞれ4割弱で、“生活の安全・安心”に係る項目が特に高い。

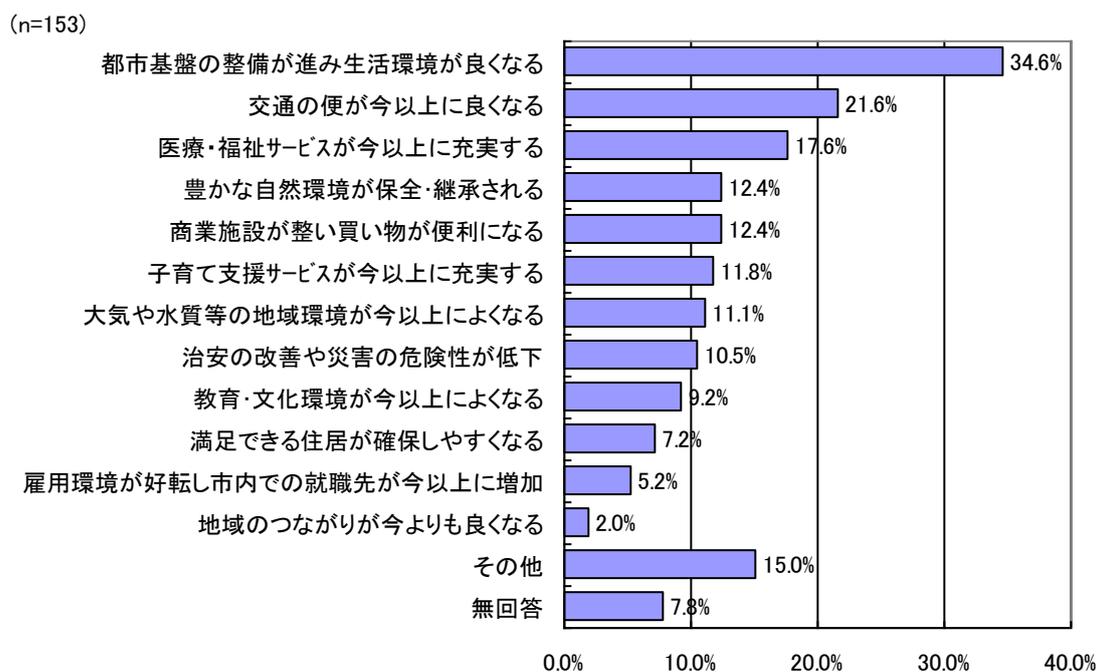
図表 6 定住意向がある人が転出したくなるきっかけ



(3) 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ

- ・「都市基盤の整備が進み生活環境が良くなる」(34.6%)、「交通の便が今以上に良くなる」(21.6%)など、道路・交通などをはじめとする基盤整備に係る項目が上位を占めており、現状では、これらの項目に対する不満が、転出意向の要因となっていることがうかがえる。

図表 7 転出意向がある人が住み続けたいくなるきっかけ

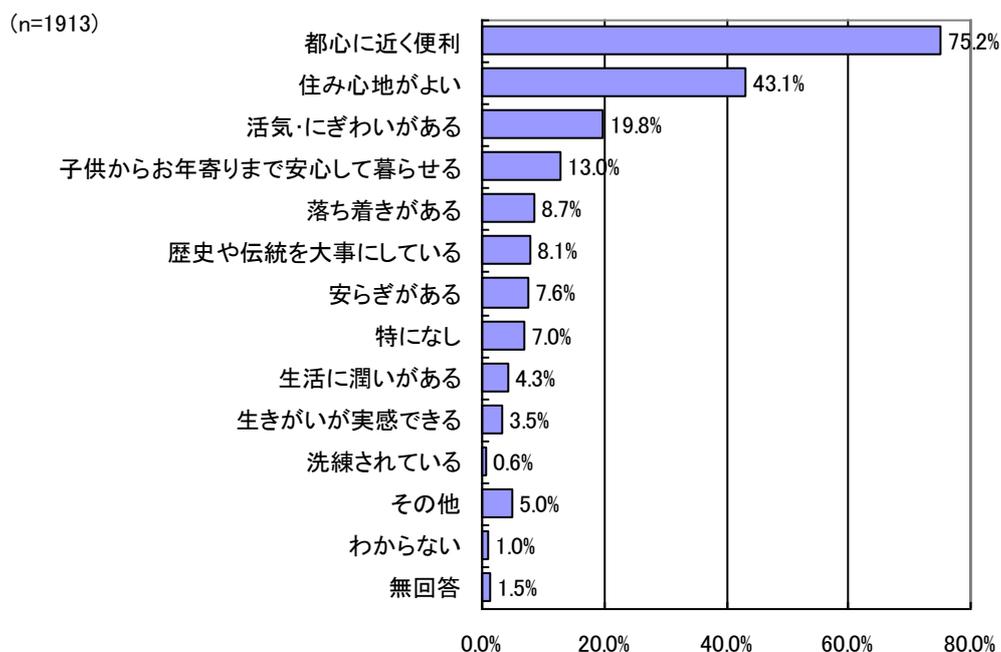


4. 現状の船橋市のイメージと船橋市が目指すべきまちのイメージ

(1) 船橋市の良いイメージ

- ・「都心に近く便利」が75.2%で突出して高く、次いで「住み心地がよい」が43.1%と、これら2項目が他の項目に比べて特に高い。

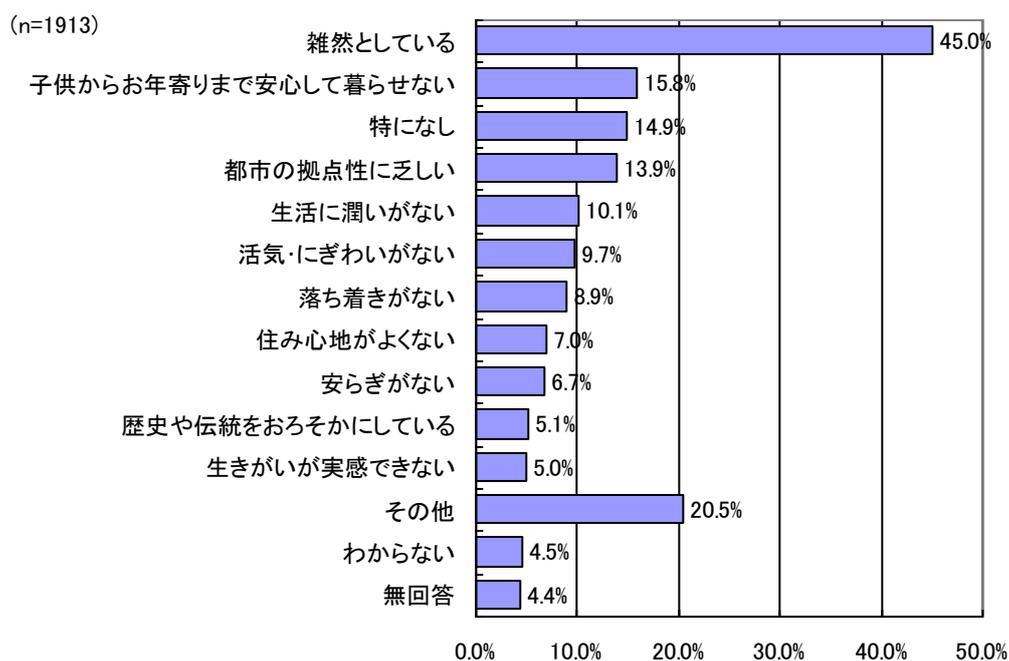
図表 8 船橋市の良いイメージ



(2) 船橋市の悪いイメージ

- ・「雑然としている」が45.0%で突出して高い。また「その他」も20.5%である。次いで、「子どもからお年寄りまで安心して暮らせない」(15.8%)となっている。

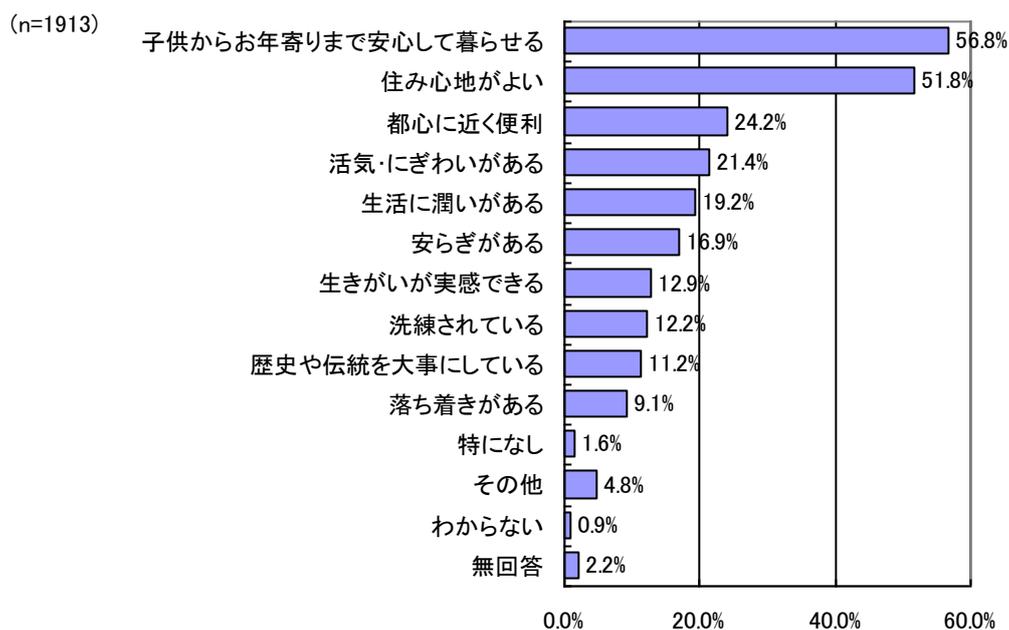
図表 9 船橋市の悪いイメージ



(3) 船橋市が目指すべきまちのイメージ

- ・「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」(56.8%)と「住み心地がよい」(51.8%)がそれぞれ5割以上で、この2項目が他の項目に比べて突出して高い。次いで「都心に近く便利」(24.2%)、「活気・にぎわいがある」(21.4%)が2割以上である。
- ・なお、「住み心地がよい」は、市の良いイメージとして回答率が4割を超えているのに対して、「子どもからお年寄りまで安心して暮らせる」は良いイメージでも1割強、悪いイメージ(「子どもからお年寄りまで安心して暮らせない」)で2割弱あげられており、現状とのギャップが比較的大きいといえる。

図表 10 船橋市が目指すべきまちのイメージ



5. 船橋市の生活周辺環境への評価と、今後の取り組みの重要度

＜回答形式＞

・本設問は、各項目について、回答者が生活する上で「現在の状況（A欄）」および「以前と比べて（B欄）」をどのように感じているか、また、今後その取り組みを進めることの「重要度（C欄）」を、それぞれ下表の該当する箇所には○をつけてもらう形式とした。

※B欄の「以前と比べて」は5年以前と比べて、それ以降に市内に住んだ方は転入当時と比べて。

※「特に重要」は、「他の施策を遅らせてでも優先的に取り組むべきと思うもの」。

図表 11 船橋市の生活環境への評価 回答表のイメージ（一部）

分野	番号	市の取り組み	A.現在の状況			B.以前と比べて			C.重要度		
			良い	ふつう	悪い	良くなった	変わらない	悪くなった	特に重要	重要	重要でない
	1	各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境									
	2	病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境									
	3	子育て家庭の状況に応じた多様な子育て支援サービス									
	4	障害者にとっての生活しやすさ									
	5	高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境									
	6	介護保険サービスの充実状況や使いやすさ									
	7	国民健康保険の適切な運営・情報提供の状況									
	8	国民年金事業の適切な運営・情報提供の状況									
	9	生活保護受給者に対する相談・指導体制の充実状況									

＜満足度（現在の状況への評価）と重要度の関係（図表 19～図表 24）の評価方法＞

・ステップ1：各項目の回答比率をもとに、以下のとおり、満足度と重要度を数値化した。

—数値化の方法—

・満足度（現在の状況への評価）

「良い」1点、「どちらともいえない」0点、「悪い」-1点とし、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

・重要度

「特に重要」とした回答割合（%）を2点、「重要」とした回答を1点とし、各回答数を乗じた数値を合計し、総回答数で除した数値に100を乗じて数値化した。

こうして算出した全項目の得点の単純平均を「平均重要度」とした。（本調査の重要度平均値=0.736）

・ステップ2：数値化の結果を、満足度のプラス・マイナス（+）、重要度と平均重要度との大小関係により、下表に示す4類型に分類した。

図表 12 満足度と重要度の関係の分類

	パターン	現在の満足度	重要度
I	現在の満足度は高いが、重要度も高い	+	平均より高い
II	現在の満足度が高く、重要度は高くない	+	平均より低い
III	現在の満足度が低く、重要度が高い	-	平均より高い
IV	現在の満足度は低い、重要度は高くない	-	平均より低い

(1) 現在の生活周辺環境の評価

- ・全 50 項目のうち、現在の状況が良いと評価された割合は「鉄道・バスなど公共交通の利便性」(19.7%)が最も高く、次いで「ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況」(16.1%)、「各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境」(15.6%)の順となっている。
- ・現在の状況が悪いと評価された割合は「身近な道路の安全さや快適さ」(50.0%)が最も高く、次いで「都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況」(30.0%)、「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」(27.3%)の順となっており、道路を中心に交通環境に関する項目が上位にあげられている。

図表 1 3 現在の状況が良い項目 上位10項目 (回答者全体)

順位	現在の状況が良い項目(上位10項目)	割合
1位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	19.71%
2位	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	16.10%
3位	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.58%
4位	16 下水道の整備環境	14.95%
5位	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	14.32%
6位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	14.17%
7位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	12.70%
8位	26 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	11.50%
9位	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	11.13%
10位	19 消防体制・救急体制の状況	10.14%

図表 1 4 現在の状況が悪い項目 上位10項目 (回答者全体)

順位	現在の状況が悪い項目(上位10項目)	割合
1位	42 身近な道路の安全さや快適さ	49.97%
2位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	29.95%
3位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	27.34%
4位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	26.71%
5位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	26.19%
6位	40 良好な景観・街並みが保存されている状況	24.93%
7位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	23.31%
8位	20 まちの美化の状況	21.96%
9位	10 自然と調和したまちづくりの状況	21.69%
10位	05 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	20.28%

注) 各選択肢の番号は、全 50 項目の通し番号。現基本計画の分野ごとに選択肢を並べているため、番号の近い選択肢は、おおむね類似の分野となっている。(分野の分類など、詳細は調査票を参照。) 以下、同様。

(2) 以前と比較した生活周辺環境の評価

- ・以前と比べて良くなったと評価された割合は「下水道の整備環境」（23.1%）が最も高く、次いで「バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況」（21.2%）、「ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性」（17.6%）の順となっている。
- ・以前と比べて悪くなったと評価された割合は「安心して働くことができる雇用・労働環境」（22.0%）が最も高く、次いで「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」（20.7%）、「身近な道路の安全さや快適さ」（15.3%）の順となっている。

図表 15 以前と比べて良くなった項目 上位10項目（回答者全体）

順位	以前と比べて良くなった項目(上位10項目)	割合
1位	16 下水道の整備環境	23.11%
2位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	21.22%
3位	50 ITの活用による各種手続きの簡便化や行政サービスの利便性	17.62%
4位	15 ごみの適切な処理や減量・リサイクルの取り組み状況	16.05%
5位	01 各種検診・健康診断など健康づくりに取り組みやすい環境	15.58%
6位	46 各駅前などの生活拠点のにぎわいの創出	15.32%
7位	44 鉄道・バスなど公共交通の利便性	14.01%
8位	33 魅力的な商業施設等の集積の状況	13.64%
9位	12 まちの中にみどりや公園が豊かにある状況	10.19%
10位	20 まちの美化の状況	9.78%

図表 16 以前と比べて悪くなった項目 上位10項目（回答者全体）

順位	以前と比べて悪くなった項目(上位10項目)	割合
1位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	21.96%
2位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	20.70%
3位	42 身近な道路の安全さや快適さ	15.32%
4位	35 元気で競争力のある中小企業が活動している状況	14.48%
5位	40 良好な景観・街並みが保存されている状況	11.87%
6位	10 自然と調和したまちづくりの状況	10.09%
7位	38 活気があり安定的な漁業が行われている状況	9.83%
8位	37 市民に親しまれる都市型農業が発展している状況	9.67%
8位	39 消費者の利益がまもられている状況	9.67%
10位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	9.36%

(3) 今後の取り組みの重要度

- ・「特に重要」と評価された割合は「身近な道路の安全さや快適さ」(38.4%)が最も高く、次いで「犯罪が少なく安心して暮らせる住環境」(37.8%)の順となっている。
- ・「特に重要」との評価が高いこれら2項目は、現在の状況への満足度が低く、かつ重要度も高くなっており、特に注意すべき項目と考えられる。
- ・「重要でない」と評価された割合は「市内における墓地の整備状況」(16.1%)が最も高く、次いで「地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境」(13.9%)および「まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況」(13.9%)があげられている。

図表 17 「特に重要」の割合が高い項目 上位10項目(回答者全体)

順位	「特に重要」の割合が高い項目(上位10項目)	割合
1位	42 身近な道路の安全さや快適さ	38.42%
2位	18 犯罪が少なく安心して暮らせる住環境	37.79%
3位	02 病気の時に安心して医療サービスが受けられる環境	36.96%
4位	17 災害に対して十分な備えがある環境	29.06%
5位	05 高齢者が安心して老後を過ごすことができる環境	27.71%
6位	36 安心して働くことができる雇用・労働環境	27.29%
7位	19 消防体制・救急体制の状況	26.35%
8位	45 バリアフリーに配慮した交通施設の整備状況	26.08%
9位	43 都市活動を支える道路交通ネットワークの整備状況	24.20%
10位	13 公害など環境汚染の少ない安全な生活環境	22.90%

図表 18 「重要でない」の割合が高い項目 上位10項目(回答者全体)

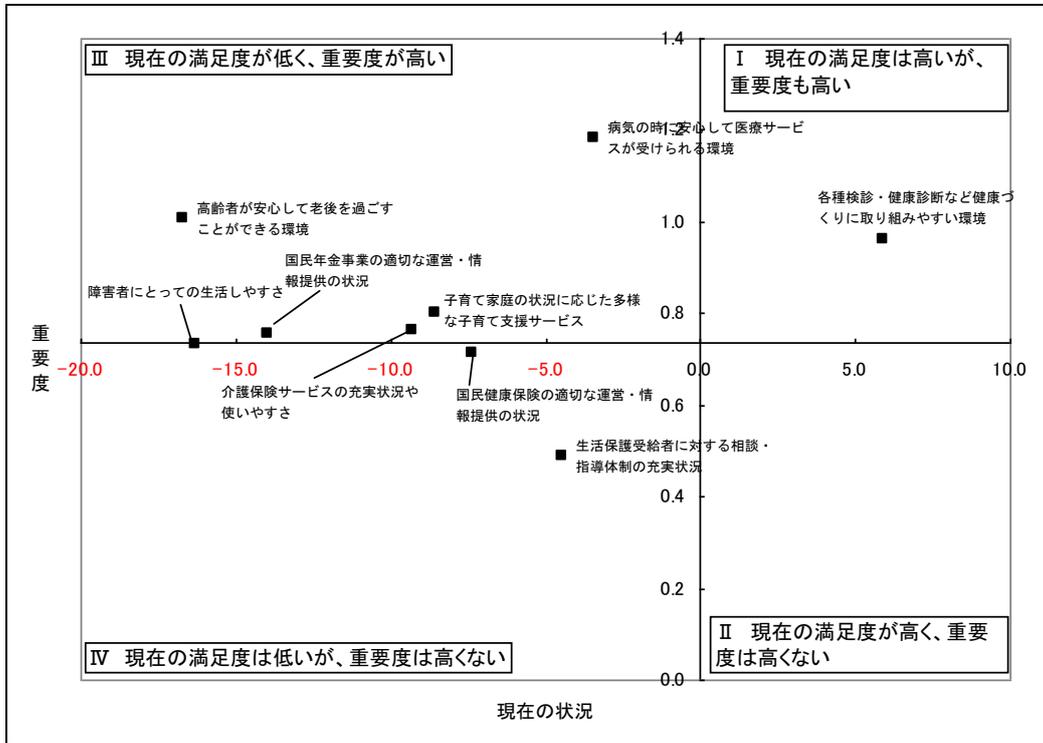
順位	「重要でない」の割合が高い項目(上位10項目)	割合
1位	21 市内における墓地の整備状況	16.10%
2位	24 地域で芸術文化活動を楽しみ参加できる環境	13.90%
3位	32 まつりやイベントなどまちの活力につながるにぎわいの創出状況	13.85%
4位	30 多様な国籍の人との交流や共生の状況	11.87%
5位	41 魅力と親しみのあるベイエリアの創出状況	11.50%
6位	25 ふるさとの歴史や文化遺産の保存や活用の状況	11.03%
7位	23 だれもが生涯を通じて楽しく学ぶことができる環境	10.98%
8位	11 親しみのある水辺の整備状況	10.93%
9位	26 だれもが気軽にスポーツを楽しむことができる環境	10.51%
10位	31 世界平和に対する市民意識の状況	10.45%

(4) 満足度と重要度の関係

・各分野の満足度と重要度の関係を、それぞれ以下に示す。グラフの4象限のうち、『(Ⅲ)現在の満足度が低く、重要度が高い』は特に注意すべき項目、『(Ⅰ)現在の満足度は高いが、重要度も高い』は、今後も留意すべき項目と考えられる。

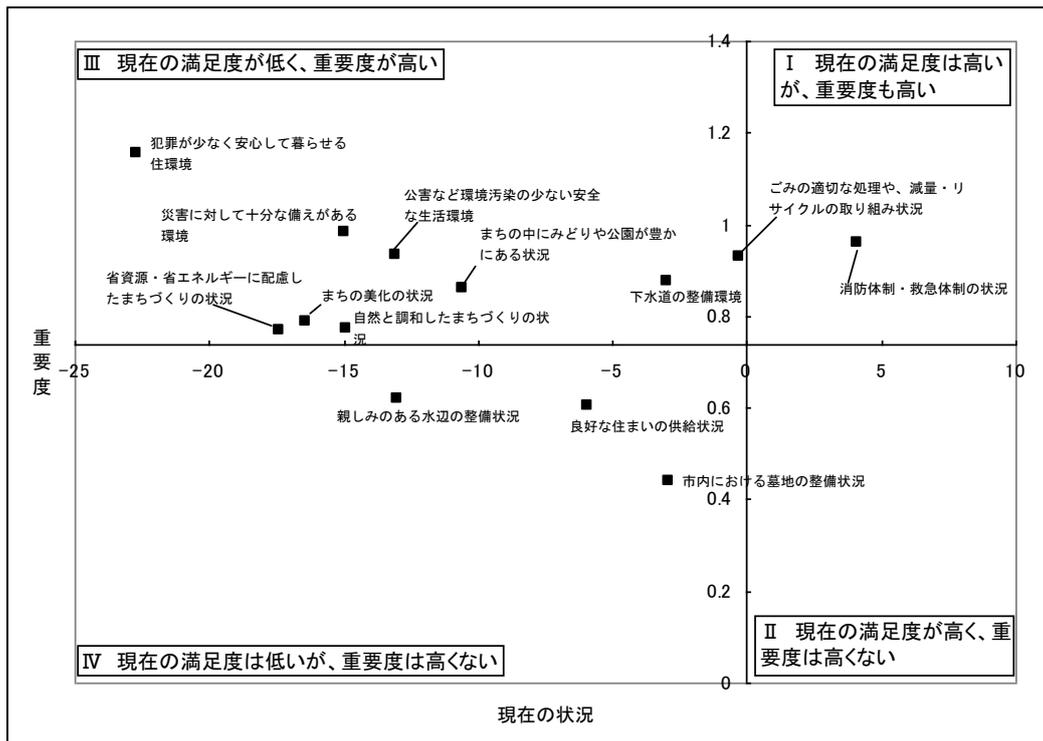
①健康・福祉

図表 19 健康・福祉の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



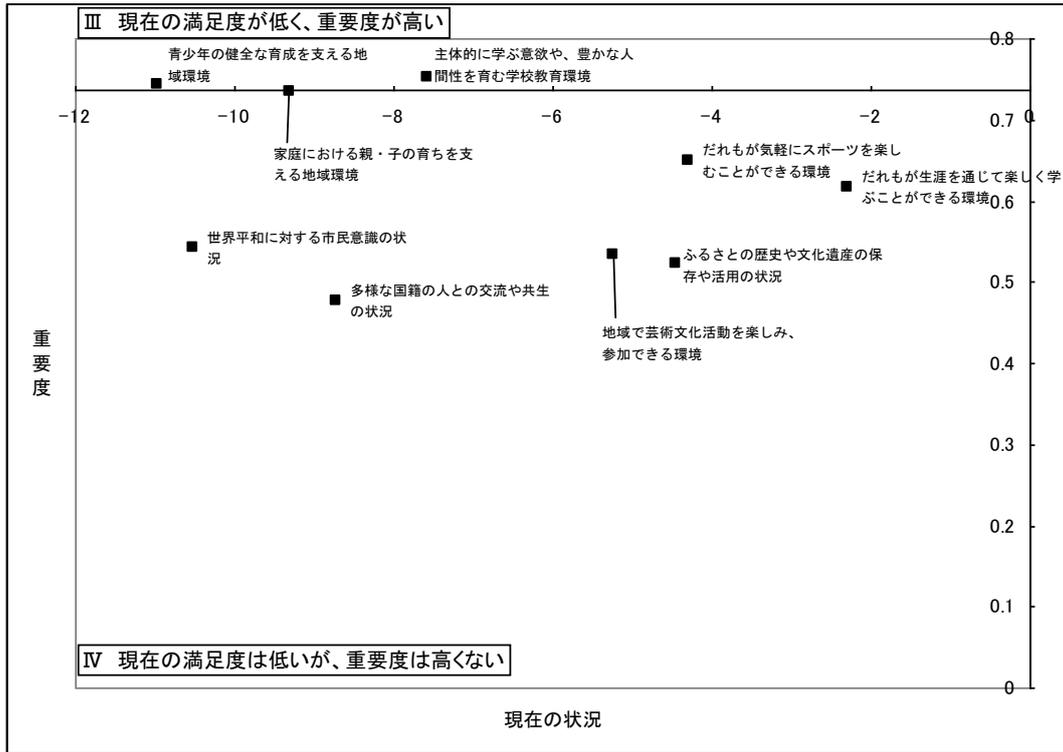
②自然環境・生活環境

図表 20 自然環境・生活環境の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



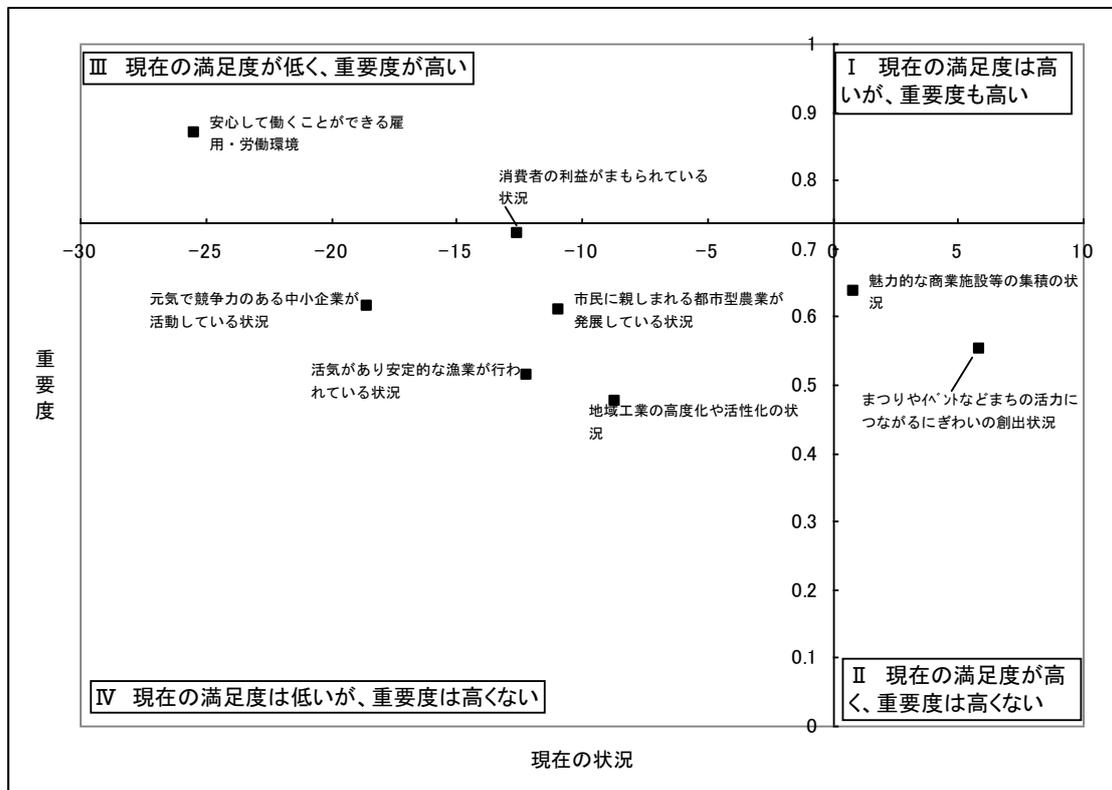
③文化・教育・生涯学習

図表 2 1 文化・教育・生涯学習の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



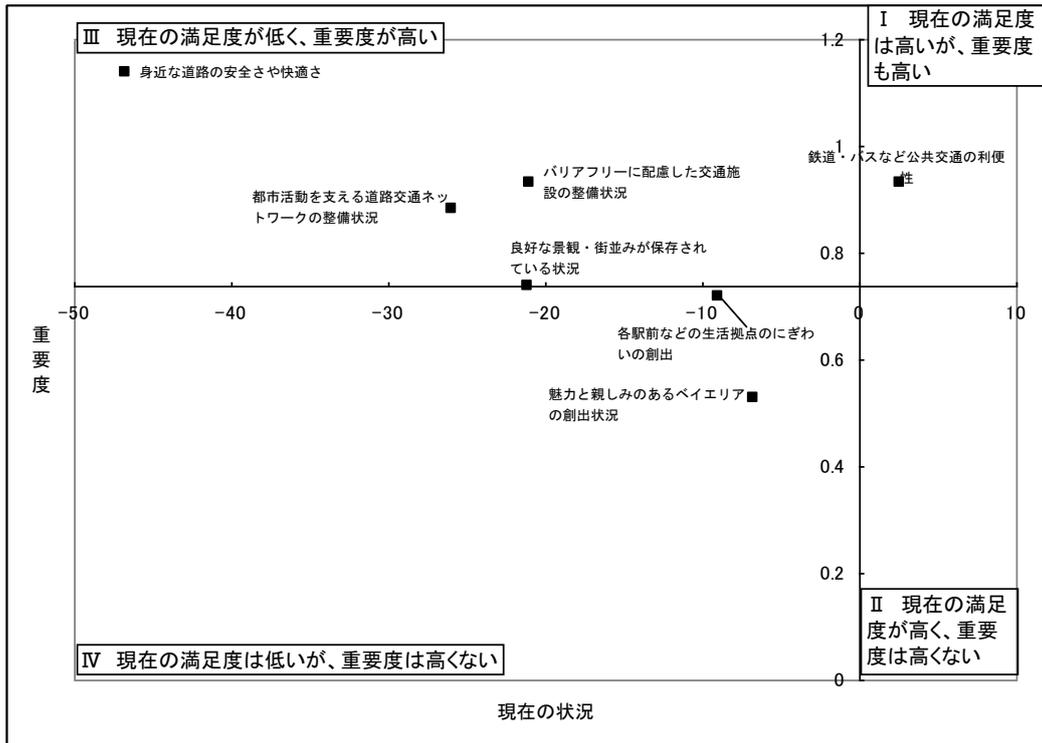
④産業振興

図表 2 2 産業振興の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



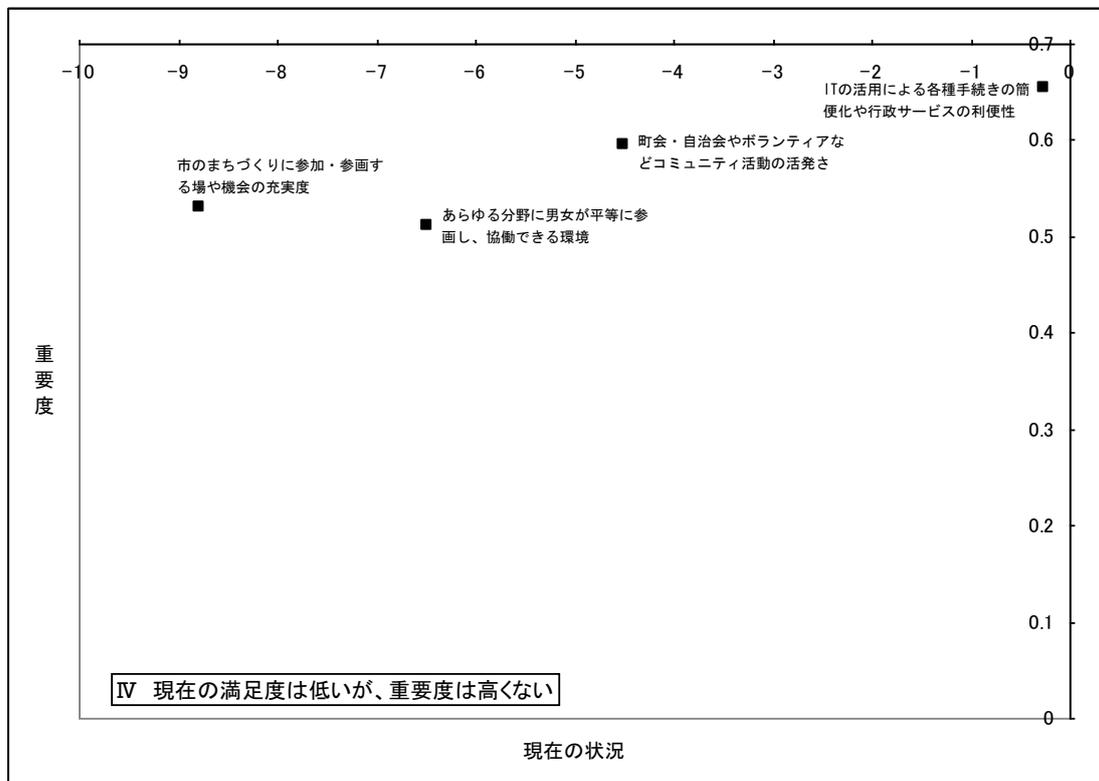
⑤まちづくり

図表 23 まちづくりの満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



⑥市民参加

図表 24 市民参加の満足度（現在の状況への評価）と重要度の総合評価



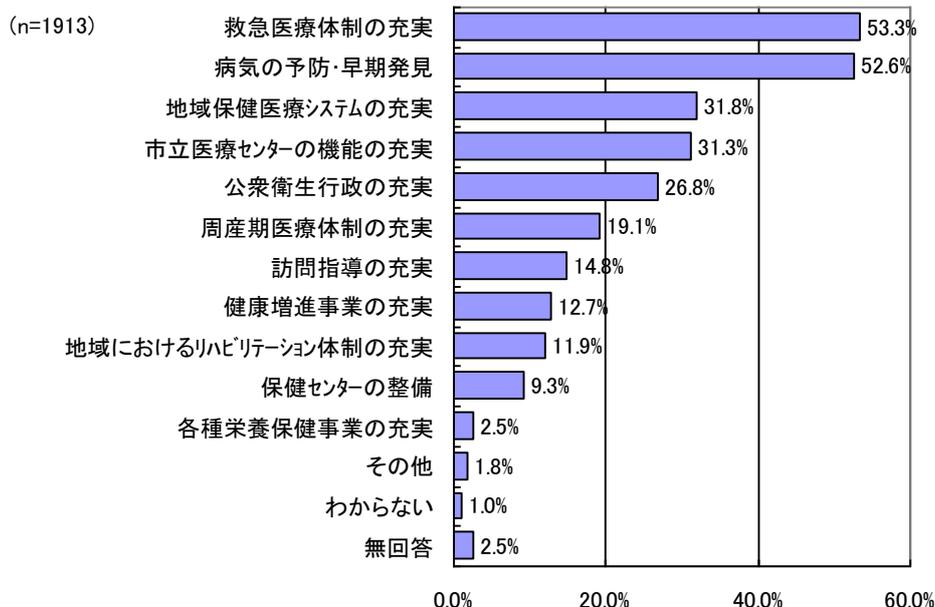
注) 当分野は、4つの項目の全てが『現在の満足度は低い、重要度は高くはない (IV)』に位置づけられている。

6. 船橋市の将来に向けて優先的に取り組むべき政策・施策

(1) 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「救急医療体制の充実」(53.3%) および「病気の予防・早期発見」(52.6%)の2項目が5割以上で、他の項目に比べて突出して高い。次いで、「地域保健医療システムの充実」(31.8%)、「市立医療センターの機能の充実」(31.3%)が3割強で拮抗している。

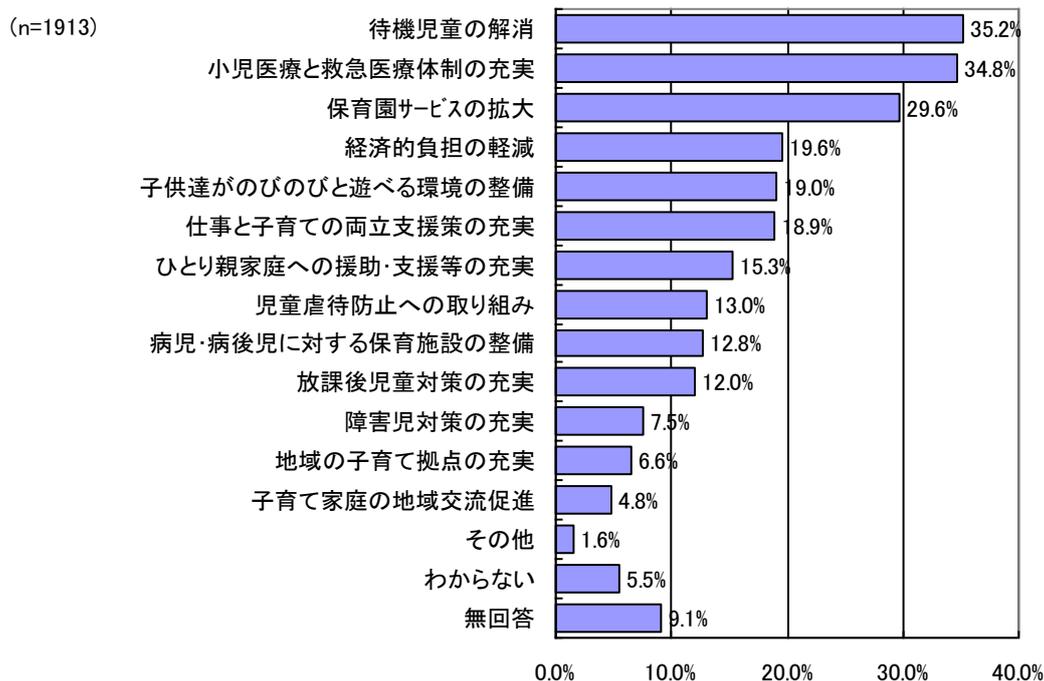
図表 25 健康維持・医療体制の充実において重点的な投資が必要な点



(2) 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「待機児童の解消」(35.2%) および「小児医療と救急医療体制の充実」(34.8%)が3割半ばで拮抗している。次いで「保育園サービスの拡大」(29.6%)となっており、上位3位のうち、保育サービスに係る項目が第1位と第3位を占めている。

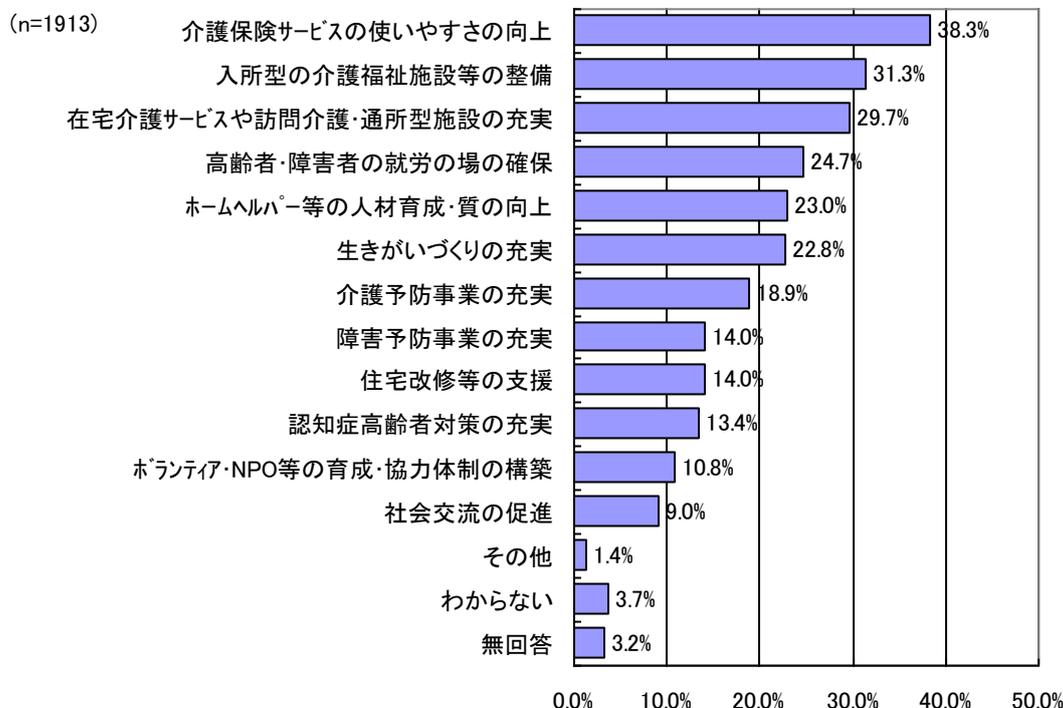
図表 26 子育て支援の充実において重点的な投資が必要な点



(3) 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「介護保険サービスの使いやすさの向上」(38.3%)が最も高く、次いで「入所型の介護福祉施設等の整備」(31.3%)および「在宅型介護サービスや訪問介護・通所型施設の充実」(29.7%)が3割前後と、全般的に介護サービス・施設への関心が高いことがうかがえる。

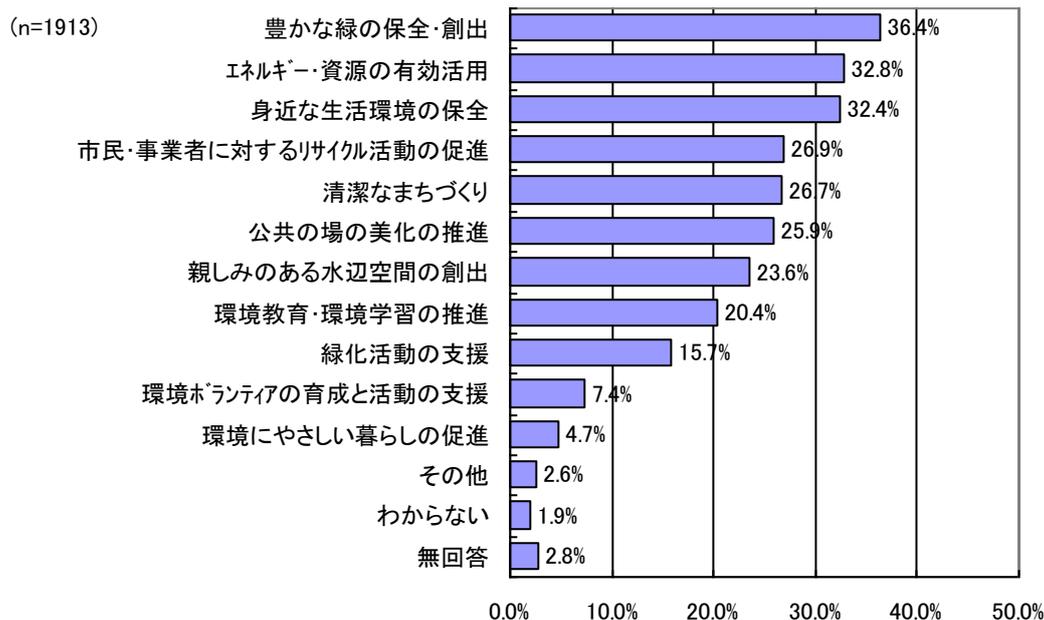
図表 27 高齢者・障害者福祉の充実において重点的な投資が必要な点



(4) 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点

- ・「豊かな緑の保全・創出」(36.4%)が4割弱、次いで「エネルギー・資源の有効活用」(32.8%)および「身近な生活環境の保全」(32.4%)が3割強で拮抗している。

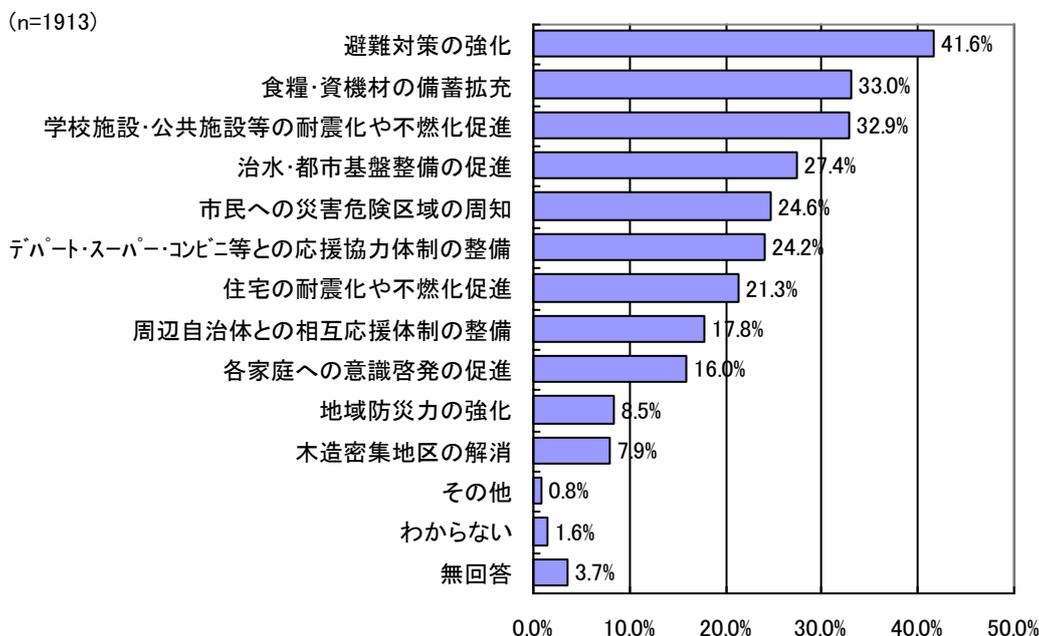
図表 28 環境保全・資源の有効利用において重点的な投資が必要な点



(5) 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「避難対策の強化」(41.6%)が最も高く、次いで「食糧・資機材の備蓄拡充」(33.0%)と「学校施設・公共施設等の耐震化や不燃化推進」(32.9%)が拮抗している。

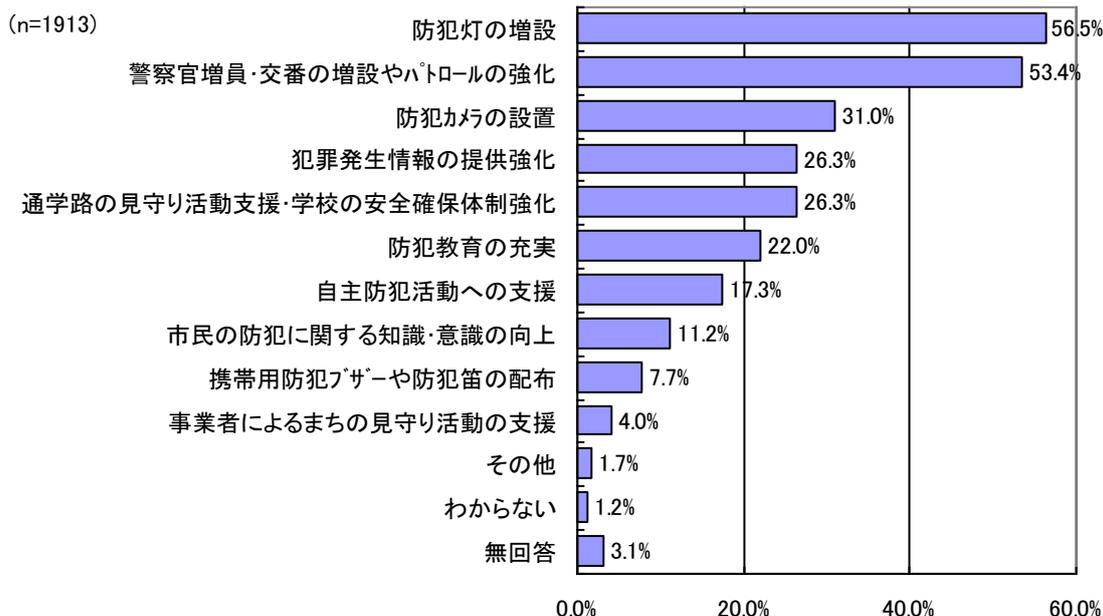
図表 29 防災体制の充実において重点的な投資が必要な点



(6) 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「防犯灯の増設」(56.5%)と、「警察官増員・交番の増設やパトロールの強化」(53.4%)の2項目が5割以上と他の項目と比べて突出して高く、次いで「防犯カメラの設置」(31.0%)となっている。

図表 30 防犯体制の充実において重点的な投資が必要な点

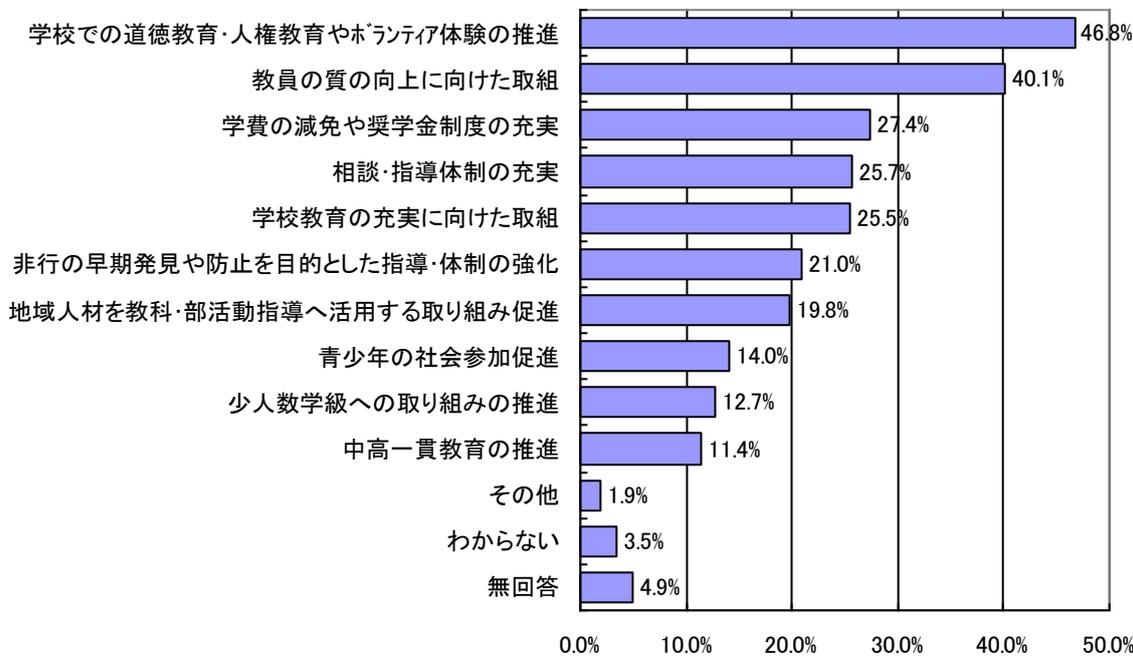


(7) 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点

- ・「学校での道徳教育・人権教育やボランティア体験の推進」(46.8%)が最も高く、次いで「教員の質の向上に向けた取組」(40.1%)、「学費の減免や奨学金制度の充実や奨学金制度の充実」(27.4%)となっている。

図表 3 1 学校教育・青少年健全育成活動の充実において重点的な投資が必要な点

(n=1913)

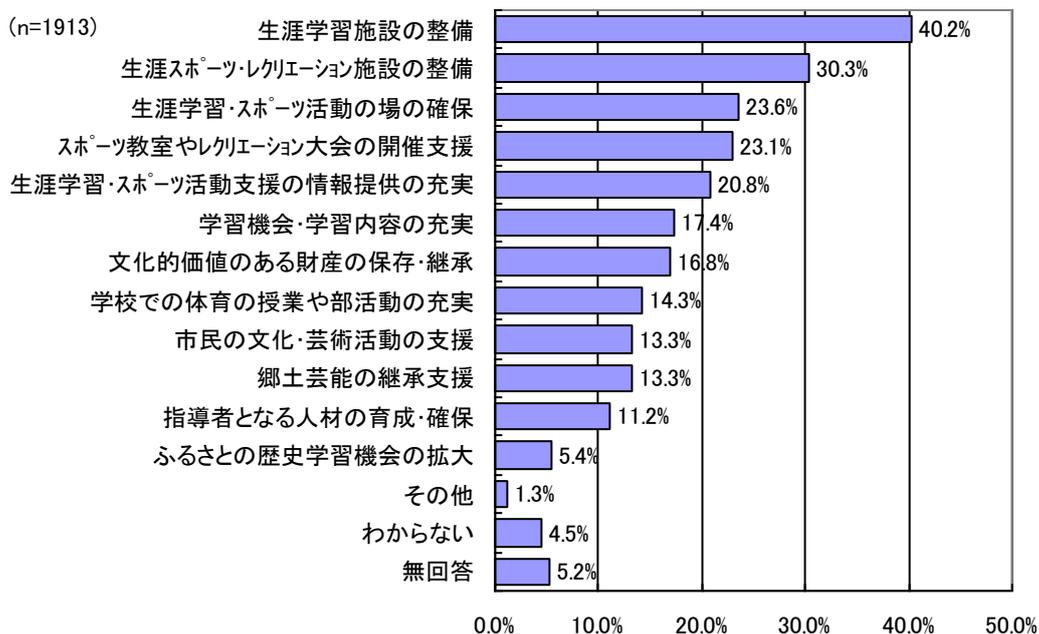


(8) 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点

- ・「生涯学習施設の整備」(40.2%)が最も高く、次いで「生涯スポーツ・レクリエーション施設」(30.3%)、「生涯学習・スポーツ活動の場の確保」(23.6%)となっており、全般的に施設整備や、既存施設の活用などに対する関心が高いことがうかがえる。

図表 3 2 生涯学習・スポーツ活動・芸術文化の振興において重点的な投資が必要な点

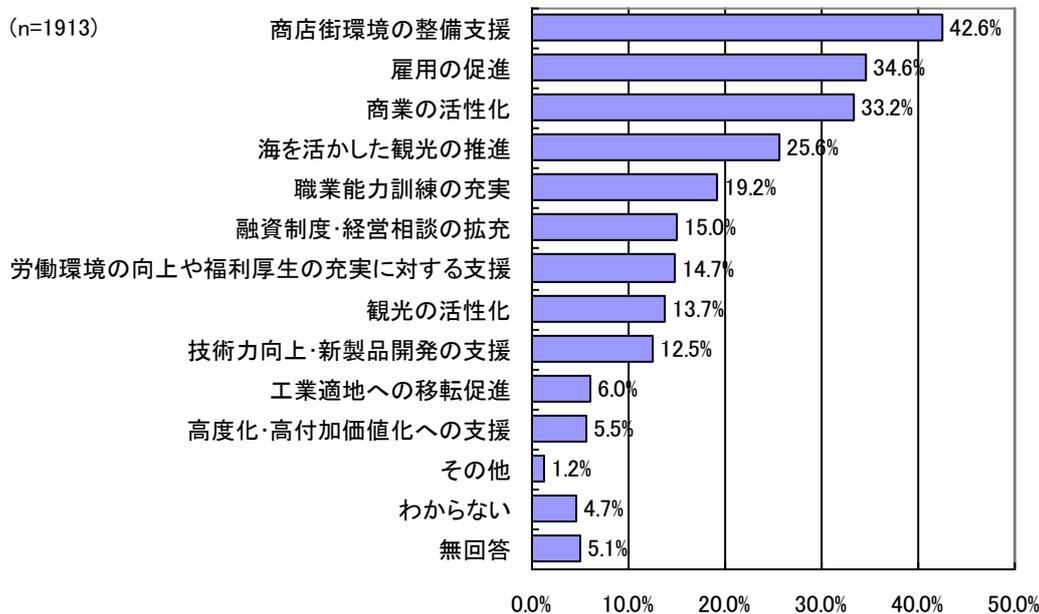
(n=1913)



(9) 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点

- ・「商店街環境の整備支援」(42.6%)が最も高く、次いで「雇用の促進」(34.6%)、「商業の活性化」(33.2%)が3割強である。第1位、第3位をみると、商業振興への関心が高いことがうかがえる。

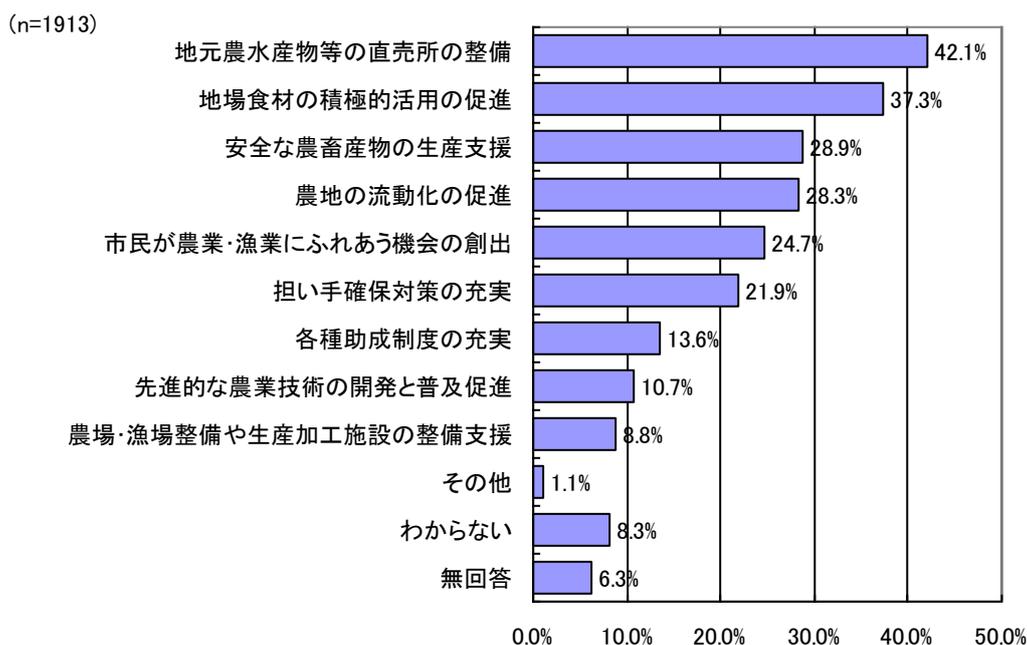
図表 3 3 商工業・観光振興において重点的な投資が必要な点



(10) 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点

- ・「地元農水産物等の直売所の整備」(42.1%)が最も高く、次いで「地場食材の積極的活用の促進」(37.3%)となっており、地産地消への関心が高いことがうかがえる。次いで、「安全な農畜産物の生産支援」(28.9%)と「農地の流動化の促進」(28.3%)が拮抗している。

図表 3 4 農業・漁業の振興において重点的な投資が必要な点

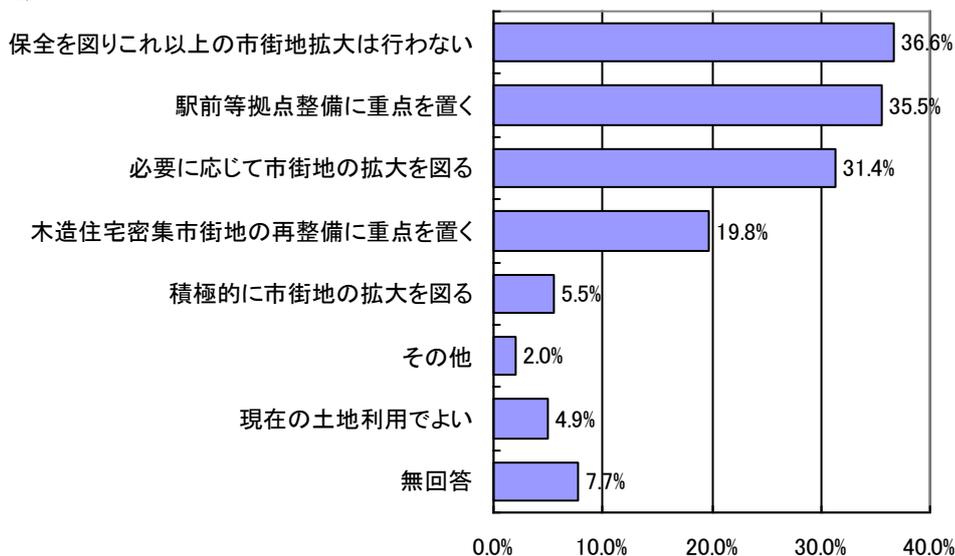


(11) 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと

- ・「保全を図りこれ以上の市街地拡大は行わない」(36.6%)が最も高く、次いで「駅前等拠点整備に重点を置く」(35.5%)、「必要に応じて市街地の拡大を図る」(31.4%)となっている。第1位、第2位から、スプロール化(無秩序な市街地開発)を抑制し、都市の中心部を活性化する集約型の都市構造への関心が高いことがうかがえる。

図表 35 土地の適正利用を考える上で基本とすべきこと

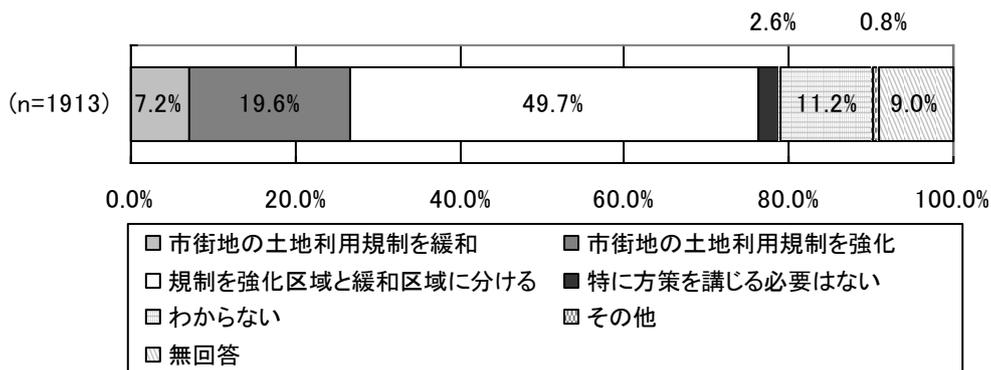
(n=1913)



(12) 将来の市街地の土地利用方策のあり方

- ・「規制を強化区域と緩和区域に分ける」(49.7%)が約5割、次いで「市街地の土地利用規制を強化」(19.6%)と、集約型都市構造に関する関心が高いことがうかがわれる。

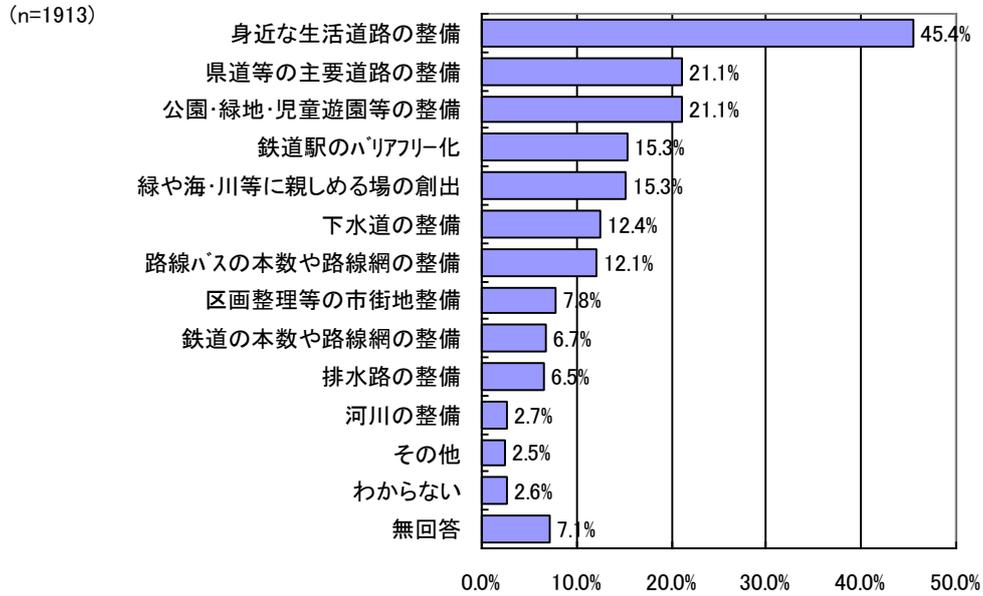
図表 36 将来の市街地の土地利用方策のあり方



(13) 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点

- ・「身近な生活道路の整備」(45.4%)が突出して高く、次いで「県道などの主要道路の整備」(21.1%)および「公園・緑地・児童遊園等の整備」(21.1%)が同率である。今後の都市基盤整備の重点事項として、道路整備への関心が高いことがうかがえる。

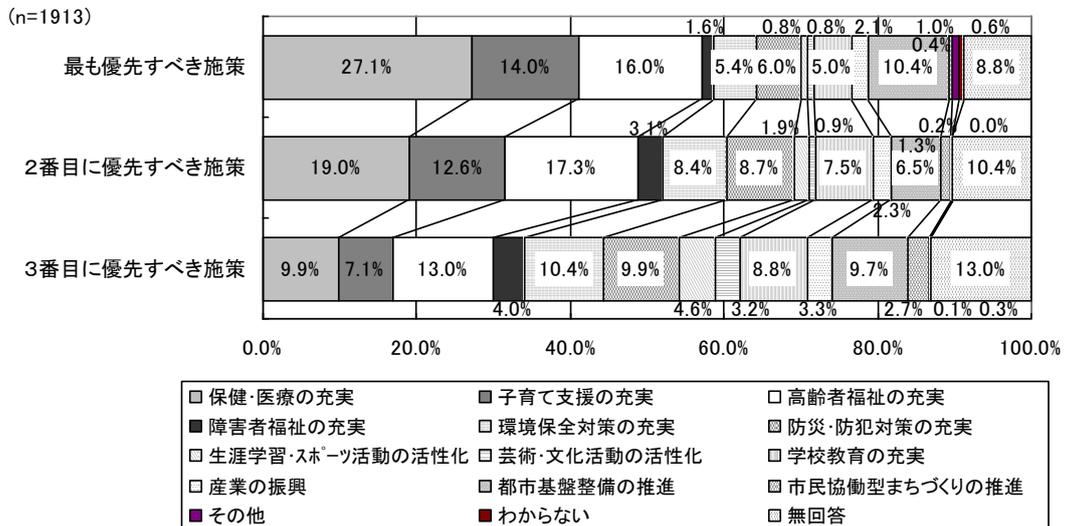
図表 37 都市基盤整備において重点的に投資が必要な点



(14) 施策の優先度

- ・これまでみてきた個別分野で優先的に取り組むべき内容に加えて、それぞれの分野の優先順位についてみると、最も優先すべき施策は、「保健・医療の充実」(27.1%)、「高齢者福祉の充実」(16.0%)、「子育て支援の充実」(14.0%)の順となっており、健康・福祉分野が上位3位を占めている。次いで、「都市基盤整備の推進」(10.4%)があげられている。
- ・2番目・3番目に優先すべき施策についても、健康・福祉分野が約3～5割を占めているが、最も優先すべき施策に比べて、「環境保全対策の充実」や「防災・防犯対策の充実」が約1割と高い。

図表 38 施策の優先度

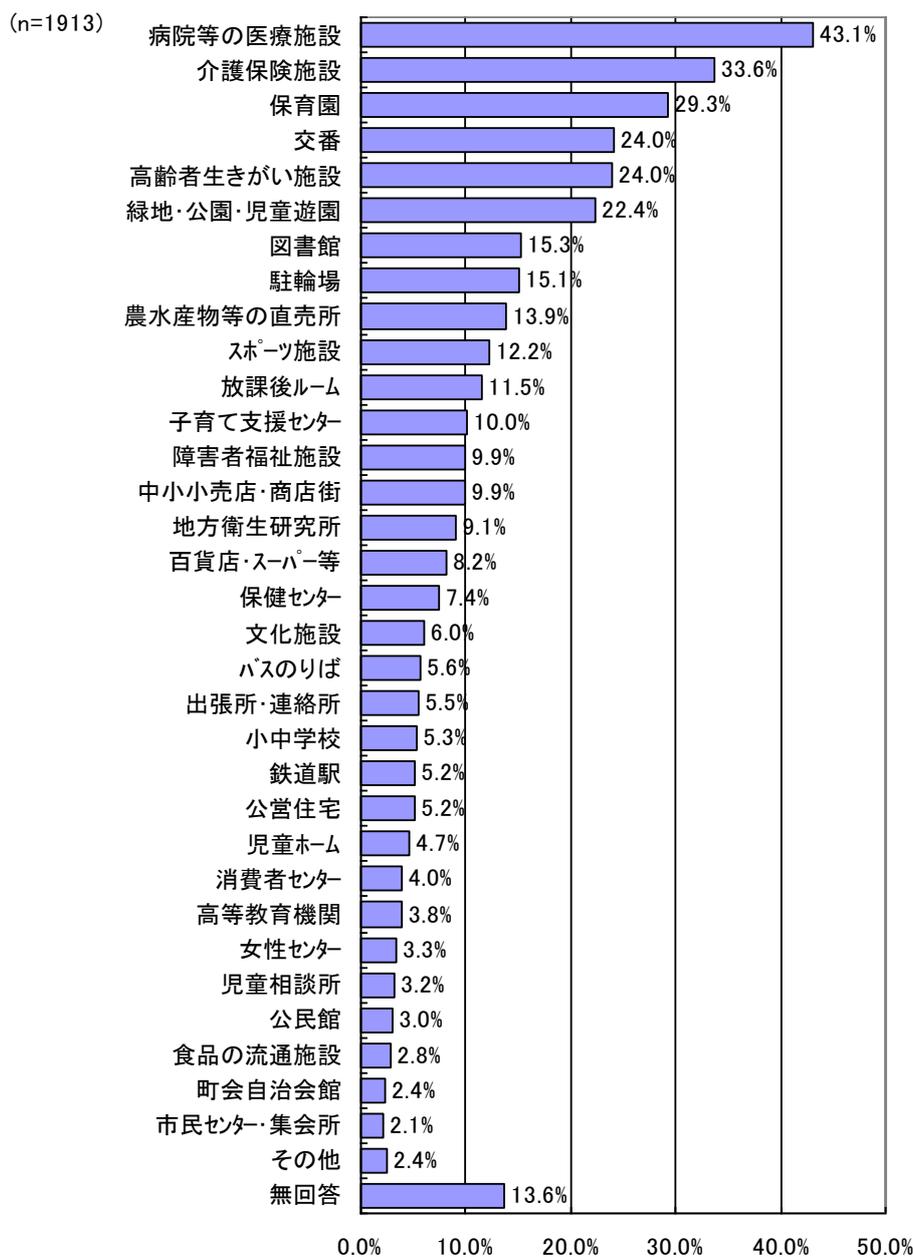


7. 船橋市における今後の施設の必要性

(1) 市内において今後整備の必要性が高い施設

- ・「病院等の医療施設」（43.1%）が最も高く、次いで「介護保険施設」（33.6%）、「保育園」（29.3%）となっている。
- ・このうち、「特に近所に必要な施設」（本概要版ではグラフは割愛）は、同じく「病院等の医療施設」（20.0%）が最も高く、次いで「交番」（13.9%）、「介護保険施設」（11.9%）、「保育園」（10.8%）となっており、「生活の安全・安心」に係る施設や、福祉関連施設が上位にあげられている。

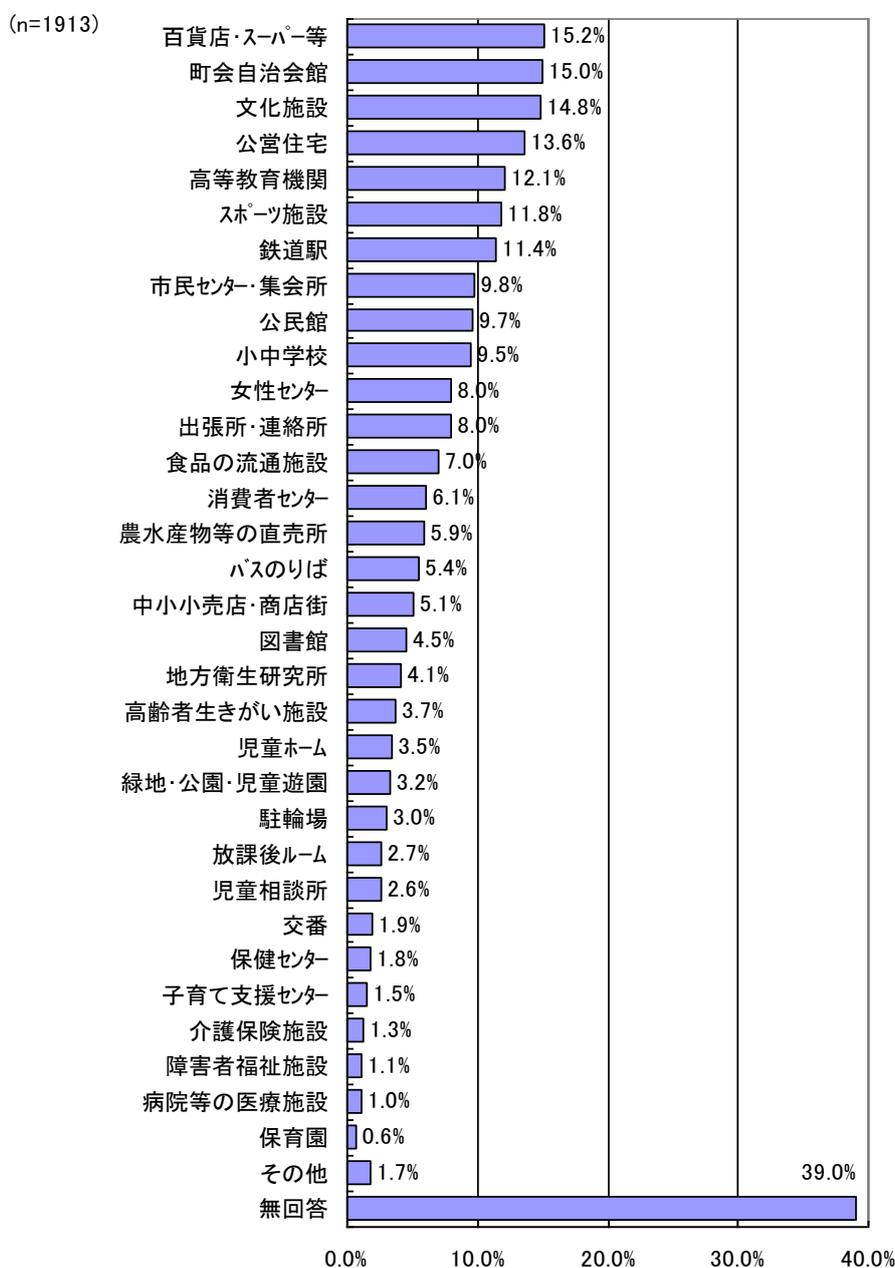
図表 39 今後整備の必要性が高い施設



(2) 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設

- ・「百貨店・スーパー」(15.2%)、「町会自治会館」(15.0%)、「文化施設」(14.8%)の順となっている。各項目間の差は比較的小さく、突出した項目はみられない。
- ・今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う理由(本概要版ではグラフは割愛)は、「小中学校」「高等教育機関」「緑地・公園・児童遊園」「百貨店・スーパー等」「鉄道駅」「バスのりば」などは、「すでに市内に十分足りているから」、「子育て支援センター」「女性センター」「保健センター」「町会自治会館」「市民センター・集会所」「消費者センター」などは、「利用機会の少ない施設だから」、「地方衛生研究所」や「高等教育機関」は「他市の施設が利用できるから」、「障害者福祉施設」「病院等の医療施設」「スポーツ施設」「文化施設」は「整備・維持にお金がかかりすぎるから」が高い。

図表 40 今後整備の必要性が低い、または縮小もやむを得ないと思う施設

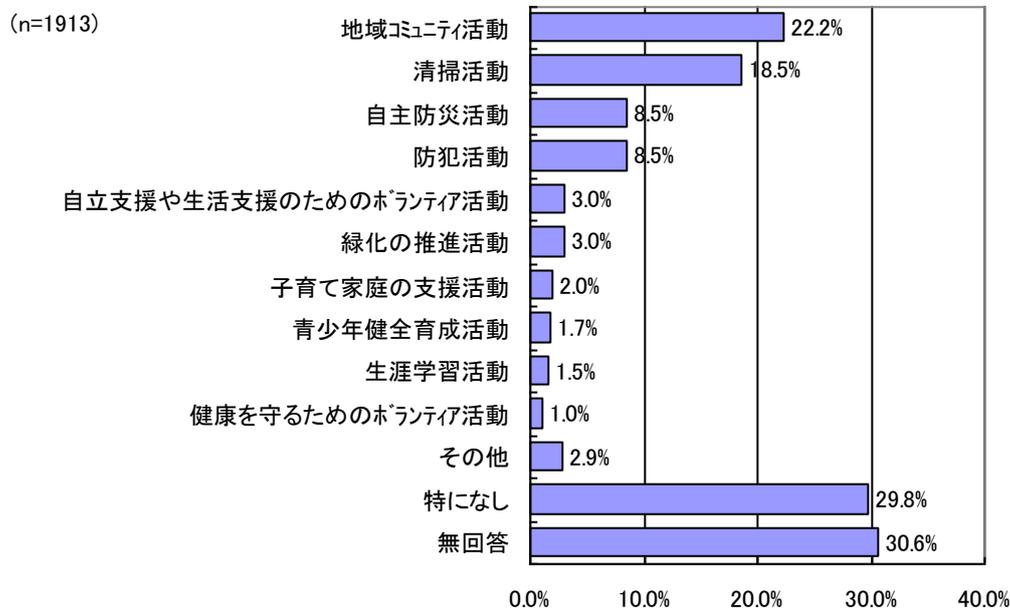


8. 地域活動の取り組みについて

(1) 日頃から地域で取り組んでいる活動

- ・「地域コミュニティ活動」(22.2%)と「清掃活動」(18.5%)が高い。
- ・一方、「特になし」も29.8%と、地域活動に特に参加していない層が約3割存在する。

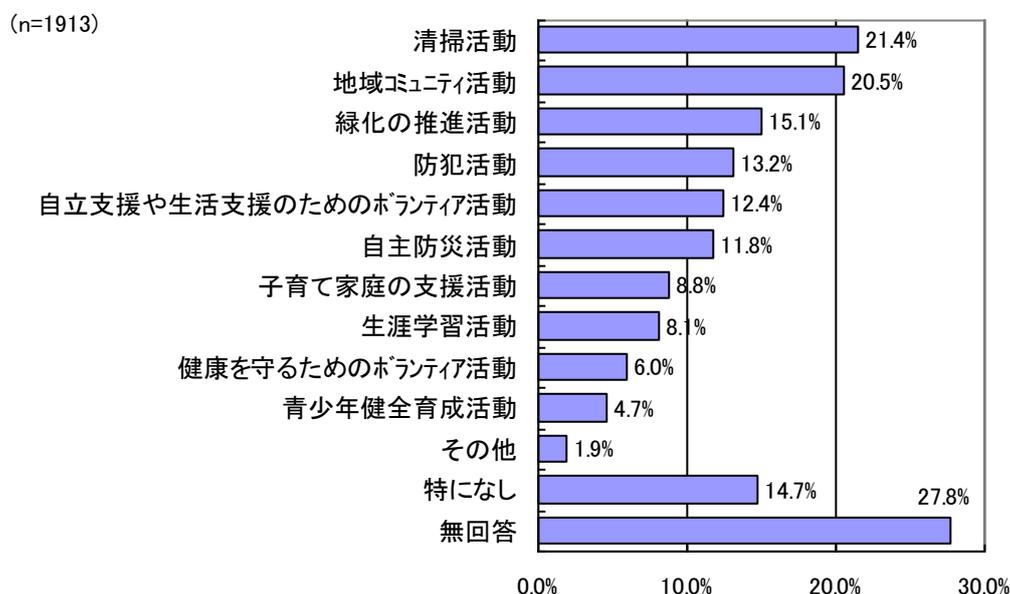
図表 4-1 日頃から地域で取り組んでいる活動



(2) 今後地域で取り組みたいと思う活動

- ・現在取り組んでいる活動と同様に、「清掃活動」(21.4%)と「地域コミュニティ活動」(20.5%)が高い。
- ・一方、「緑化の推進活動」(15.1%、現在の取組は3.0%)や、「自立支援や生活支援のためのボランティア活動」(12.4%、現在の取組は3.0%)は、現在の取り組み状況に比べて今後の取り組み意向が高い。

図表 4-2 今後、地域で取り組みたいと思う活動



(3) 今後の地域活動への参加形態

- ・「町会・自治会等の地縁団体を通じて」(40.4%)が最も高く、次いで「個人で」(28.2%)、「PTA・父母会等つながりのある組織を通じて」(20.5%)となっている。

図表 4-3 今後の地域活動への参加形態

